

東圏域に絞って議論

- ・ 東圏域は西圏域に比べて広い
- ・ 児童数減少にともない学級数も減少。単学級も
- ・ 駒ヶ谷小学校、西浦東小学校は市街化調整区域にしているため 新たな建築物は建築されない
- ・ 少人数であれば、一人ひとりの状況がつかみやすい
- ・ 児童数の増加が難しい（資料から）
- ・ 小規模校では人間関係が固定化される（クラス替えができない）
- ・ 校区が広いため通学距離が問題
- ・ 小規模校は先生が少ない、人数の差にギャップを感じる（閉鎖的な考えになってしまうことも）
- ・ 学校間を移動することの教育効果、人間関係
- ・ 小規模校、縦割り班の取組みから人間関係の構築
- ・ 地域の支えを受け、単学級での体験不足を補っている
- ・ 中学校では将来に向けた集団体験が重要
- ・ 中学校は地域に発信していく（ライトアップ、残食を堆肥へ）
→地域に根ざした学校(地域に愛される学校)
- ・ 子どもの人数の減少に加えて、私立の中学校へ進学する子どもの人数 も増加する可能性は高い
- ・ 子どもたちの安心・安全(通学路)
- ・ 子ども的人数だけを一定にするは難しい
- ・ 現状の通学区域を大幅に変更するのは適当ではない
- ・ 誉田中学校の場所を動かして小学校区を変えるなどの案も
- ・ 子どもをエンパワーする取組み(子どもたちをつないでいく)
- ・ 学校をコミュニティの中心として地域とつながることがより一層重要
- ・ 方策を考える上でリミットはどこなのか
- ・ 校区の再編
- ・ 古市小学校の一部石川東側を駒ヶ谷小学校へするとどうなるのか？
- ・ 統廃合後の学校の跡地はどうしていくのかは地域の人にとっては重要
- ・ 誉田中学校を中学校区の中心に持ってくることも
- ・ 奈良高校の移転の例
- ・ 統廃合もありきなのか

- ・地域の今後の開発状況も見据えた検討が必要
- ・土地利用の動向
- ・校区内の公園施設の情報、子どもたちが行く場所(公共施設)の情報
- ・施設の密度
- ・保護者、地域にとって学校のコミュニティーの役割
- ・入り組んだ校区には必ずそうなった理由があり、そこに住む市民の気持ちも重要
- ・都市計画マスタープラン
- ・他市では町内会と校区が違う地域もあるが…
- ・校区と福祉で地域が違うことも

次回

第5回

8月9日(金)15時～

- ・西圏域、中圏域について
- ・事務局の計画・考え